

当院フットケア外来からの報告

フットケア外来で関わった血液透析患者からの学び

慶應義塾大学病院 血液浄化・透析センター

中野玲子 坂上怜子 小田亜希 船戸初美 森下裕美

長澤千恵 水野谷悦子 吉田理 林松彦

背景

当院フットケア外来は、糖尿病、透析、末梢性動脈疾患、リウマチなどの足病変を有する患者を対象として 2011 年 11 月に開設された。

目的

フットケア外来で 2 型糖尿病から血液透析導入となった患者と関わることが出来た。その経過と看護介入より挙げられた成果を分析し考察することで、今後のフットケア外来、透析センターでの看護介入に活かす。

方法

1. 対象：フットケア外来でケア・指導を行った患者 1 名のカルテにある診療記録・看護記事。
2. 期間：2011 年 11 月～2014 年 2 月
3. 方法：上記患者の診療記録を分析した。看護介入の内容を時系列にまとめ、変化と成果を検討した。内容・経過から効果的な看護介入・支援方法を考察した。
4. 倫理的配慮：個人が特定できないようにした。

結果・考察

患者は医療者と共にフットケアを継続するなかで、ケアの効果と大切さを実感出来た。その事は、患者自身が自分の健康を維持・増進するという意識付けや意欲につながったと考える。今後、患者を中心としより円滑な医療が提供できるよう、透析クリニックなどと地域連携の促進を強化していく必要がある。